

【岩本】会議録（2022年度第1回認知症対応型通所介護 運営推進会議（ホームページ掲載用））

作成者 小川健太郎

参加者	小川健太郎, 五十嵐容子, 木田幸江, 柳瀬歩, 三浦明日香, 松本幸二郎, 高橋誠
欠席者	三浦明日香 松本幸二郎 柳瀬歩
開催日	10/24 (月)
開始時刻	11:00 ~
終了時刻	11:45
開催場所	多目的ホール
議長	小川健太郎
書記	小川健太郎
外部参加者	●●様 (ご家族様)、●●様 (地域住民代表) ●●様(認知症の人と家族の会)、●●様 ●●様 ●●様 ●●様 (4名介護支援専門員) ●●様 (千代田区 介護事業指定係⇒欠席)、●●様 (認知症地域支援推進員)
議題	<ul style="list-style-type: none"> ① 開催の挨拶・自己紹介 ② 上半期の事業概況の報告 ③ ご利用者様事例紹介 ④ 今後の課題・質疑応答、ご意見など
決定事項	
保留事項	
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 開催の挨拶・自己紹介 ② 上半期の事業概況の報告 ⇒ (会議内では資料参照) ○登録者は9月末時点で11名となっています。当月廃止の方1名、新規の方2名です。 ○要介護状態の区分は昨年度とあまり変動ありません。 ○平均年齢は91歳です。昨年は平均89歳でした。90歳～95歳の方が46%と多いです。 ○認知症高齢者の日常生活自立度はⅢaの方が最も多かったです。 ○障害高齢者の日常生活自立度はB 1が最も多かったです。 <p>「活動内容について」 木田(介護員兼相談員)：グループホームとの合同活動を継続しています。グループホームの方との地域交流も含めて行っています。オンラインでの活動の他、ほほえみプラザの玄関前で園芸活動としてサツマイモの植え付け収穫、やひまわりの植え付けを行いました。サツマイモは収穫後に食べ比べをしました。ご自身で可能な方は職員の見守りの下包丁を使って頂きました。</p>

季節の工作は、見当識障害がある方などに季節を感じて頂くための方法の一つとして行っています。飾らせていただくこともありますが、基本的には持ち帰って頂きご自宅で飾つて頂くようにしています。

ゲームレクリエーションでは認知症予防の活動として、脳に刺激を与える為、細かく手先を使うものを中心に行っていきます。感染症予防で消毒をしてから行っています。この画像は、個人でのレクリエーションを行っています。

外出活動は春に桜を観に皇居周辺に出かけた時の画像です。感染症対策でこの時は降車せずに車内から観て頂くようになりました。車内ではご利用者様からある通りで「子供の送り迎えの時に使った道」と昔を振り返って話してくださいました。

園芸活動は昨年度より開始しました。グループホームとの活動もそうですが、デイサービスのベランダを利用しプランターで行っています。水やりなど役割を持ってもらったり、花を眺めながら日光浴を楽しんでもらうこともあります。昔の農家だった方もおり、職員に「～～のようにするといいよ」などアドバイスを頂くこともありました。

小川（管理者）：活動報告について補足ですが、以前生活歴アンケートを取らせていただきました。「昔好きだった事」、「生活歴、出身地など」、「センターへの要望」を活かして個別の活動について考えるようにしています。

③ ご利用者様事例紹介 ⇒（会議内では資料参照）

○A様 女性 初回ご利用時 令和1年7月（要介護1 93歳 脳血管性認知症）

ご自宅では同じ話を繰り返したり、被害妄想や作話があるとのお話があり、このまま症状が進まないように出来る限り自宅での生活を継続できるようにとのことで利用を開始されました。

また、岩本町の4階にあるグループホームにお知り合いの方が入所されていたので、デイサービスに通いながらできれば、そのご友人にも会いたいとの希望もありました。

ご利用中は、昔、習字教室に通っていたこともあり特に書道活動に熱心に参加されていました。その他俳句の脳トレの活動や、お茶点など趣味活動にもよく取り組まれていました。

また、グループホームとの合同活動があり、1階ピロティでのお茶会で、ご友人と再開された際には昔話に花が咲いておりました。コロナ渦のため、交流活動がオンラインに切り替わってからもお互いの顔が見えるたびに画面越しに笑顔で話される姿がありました。

今年度は、以前と比べると歩行機能が少し低下している様には思われましたが、概ねADLの維持が出来ていました。ご契

約時に伺っていた周辺症状についても落ち着いていたようです。

そんな、A様もご友人と同じグループホームに入所が決まり、今年7月に入所をされることとなりました。継続的にグループホームとの交流活動もあったため混乱もなく入所されました。

顔馴染みの方と継続して交流できたことで認知症状を安定させ、交流の楽しみは生活の張りに繋がったのではないかでしょうか。

小川(管理者)：グループホームとの方との交流を続けていることによって、デイサービスからグループホームへの入所がうまくつながることが出来た良い事例だと思いましたのでご紹介させていただきました。

④ 今後の課題・質疑応答、ご意見など
⇒(今後の課題について会議内では資料参照)

○ご家族様とのつながりについて

よりつながりを強めていきたいと思います。適切にご自宅での状況を把握することでデイサービスでの活動やケアに活かし、それをご家族に伝えていけるような流れを持ちたいです。具体的には連絡ノートとは別に交換ノートを作つてお試ししたいと思います。

また、新型コロナウィルスの感染状況に留意しながら、ご家族様の見学機会を作りたいと思います。ご新規の方には前年度実施させていただいた生活歴アンケートをお渡しし、活動やケアに繋げていきたいと思います。

○ご利用様の変化についての報告の方法

デイサービスに来ていただいてからの変化をより適切に把握するため、私たちなりの評価表を作り報告していきたいと考えています。現段階では中核症状と機能障害を知る研修や、認知症疾患の種類とアセスメントに関する研修を合わせて行い、それらを参考とし、簡易な評価表を作成して、ご家族様への報告に活用したいと考えています。

○地域交流・外部との交流について

実習生との交流、オンラインによるボランティア等の方との交流、作品を通しての地域の高校生との交流、グループホームいわもとのご利用者様との交流を行っています。

そのほか鞠町にある訪問美容の方に毎月の土曜日に来て頂く予定がございます。ご希望がありましたら、スポット利用での利用の検討も出来ますので、ぜひご活用下さればと思います。

感染状況に留意し、地域での買い物や地域の子供たちとの交流機会を持つことが出来たらと考えています。

○第三者評価より

今年度の第三者評価では、「例えばネイルサロンなど訪問の有料サービスを導入してみてもよいのではないかでしょうか。ボランティア活動だけで活動の充実をさらに図っていくことも難しいと思われます」、という内容のお話をいただきました。

○質疑応答

認知症地域支援推進員 ●●様より

ご利用者様の状態の変化については、定期的なモニタリングの中で、ご家族と事業者が目線をそろえて、現在の一番の課題は何かを考えたり、成果が見えることは良いことだと思います。デイサービスでの働きかけが目に見えてくるものが出でてくると良いと思います。

11月に認知症カフェを行う予定がありますが、明日もここで（ほほえみプラザ多目的ホールで）認知症カフェがあります。認知症のご家族も、診断を受けてからネガティブなところから始まっていることが多いが、外部交流によって認知症の活動が目に見える形で外に出ると良いと思います。

認知症の人と家族の会 ●●様より

認知症の方はご家族と両輪であり、ご家族の方も自身の人生を楽しんでほしい。ネガティブな部分もあるとは思うが、もう一歩二歩進んで生き生きとした人生を送ることが出来たらよいと思います。最近では新しい認知症の薬が出ており、参加した講演では、ある先生がおっしゃるには成果も出ているとの話も聞いています。

デイサービスで良い環境を整えてあげることで帰られてからのご家族との良い関係がもてるのではないか。色々な認知症に関する相談を受けさせていただいているが、ご家族も認知症についてしっかり学んでもらうことも大事だと思っています。ケアマネジャーさんも数が足りなくて大変になっていると聞いています。

ご利用者ご家族様 ●●様より

こちらのデイサービスでお世話になっています。小脳梗塞を患いまして認知症もあります。時間や季節などが分からなくなっています。私についても息子ではなく、兄と思っていたり、以前は父と思っていた時期もありました。デイサービスは週2回通っていますが私も本人も息抜きになっていると思います。

食事は食べこぼすことが多くて、時におかずだけしか食べないこともあります。自宅ではレクリエーションのような機会は持てないのでここで色々やってもらえたうちは思っています。たまにこちらで興奮するようなこともある様ですが、家でも自分の思いと違うところがあると怒ることがあります。朝起きたくないのに起こされるとか。

今はポータブルトイレを使っていますが、ベッドから2、3メートルのところの席に移動するとき、立ったり座ったりが一番困るところかなと思います。それができるうちは私でも看ることが出来ると思いますが、それができなくなると家で過ごすのは難しいと思います。

⇒小川(管理者)より

ご自宅での様子や今感じられていることを教えて頂きましてありがとうございます。お話を伺って、デイサービスで立ち座りの練習などをしていることもあります。その必要性について改めて認識させていただきましたので、また取り組んでいきたいと思います。ご本人様は過去に手話サークルに入られていたこともあって、手話を交えた挨拶やちょっとし

た活動を行うと、表情が変わってとても刺激を受けているようを感じることがあります。ご自宅では難しい活動にもぜひ参加していただけたらと思います。

以上

資料

次回開催予定

資料1~5

資料6~10